

食料科学委員会畜産学分科会（第24期・第3回）議事録要旨

1. 日 時 平成30年8月31日（金） 13：00～15：00
2. 場 所 日本学術会議5階5-C（1）会議室
〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34
3. 出 席 眞鍋昇（二部会員）、吉澤緑、柏崎直巳、木村直子、
遠野雅徳、足立吉数、小澤壮行、束村博子、
梶村恭子（連携会員）、永井卓（特任連携会員）
欠 席 枝重圭祐、佐藤英明（連携会員）
4. 議事
 - （1）定足数の確認：10名が出席し、分科会は成立した。
 - （2）前回（第24期・第2回会議）の議事録要旨案の承認
第24期第2回分科会の議事録要旨案を確認後、承認した。
 - （3）第24期活動報告について
 - ・平成30年3月30日に日本畜産学会第124回大会（東京大学）会期中に、日本畜産学会、本分科会ならびに畜産学アカデミー共催で公開シンポジウム「畜産物の質的保証：2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」が開催された旨の報告があった。オリンピックに向けた畜産物の安全性について、引き続き検討することとした。
 - ・日本学術会議後援の第7回日中韓草地会議（平成30年7月8～10日、北海道大学）が開催された旨の報告があった。
 - （4）今後の第24期活動予定について
 - A. 公開講演会・シンポジウムの共催などについて
 - ・獣医学分科会・食の安全分科会・本分科会と共催でアフリカ豚コレラに関する公開シンポジウム（平成30年12月28日開催予定、日本学術会議講堂）を開催することが報告された。
 - ・農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会が企画した公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム」（平成30年12月21日：日本学術会議講堂）と共催予定であることが報告された。

- ・本分科会主催、日本畜産学会や中央畜産会などと共催で食料危機に向けた持続可能な畜産物生産に関する公開シンポジウム（平成31年2月13日開催予定、日本学術会議講堂）は、2019年度に開催する方向となった。
- ・日本畜産学会第125回大会（平成31年3月開催予定、麻生大学）において、日本畜産学会主催、本分科会ならびに畜産学アカデミー共催で公開シンポジウムを検討することとなり、小澤委員が調整を行うこととなった。
- ・2019年度日本草地学会広島大会（平成31年3月開催予定、広島大学）において、日本草地学会主催、日本学術会議共催で公開シンポジウムを検討することとなった。
- ・第5回国際在来豚研究会大会（平成31年11月28日開催予定、沖縄コンベンションセンター）において、公開シンポジウムを検討することとなった。

B. シルバー研究者の活用について

次世代への知識・経験の継承において、畜産学分野のシルバー研究者の活躍の場の充実を図ることについて、意見交換がなされた。

C. 教科書（朝倉農学体系）の作成について

眞鍋委員長より、農学の基礎的・中心的科目について、基礎から最先端の内容を解説する教科書（出版元：朝倉書店）作りの進捗状況が報告された。畜産学領域は、眞鍋委員長が編集を担当し、各分野の執筆予定者による初稿の提出が年内に行われる予定である旨の説明があった。

D. 学協会との一層の連携充実について

畜産学会、草地学会、家禽学会、養豚学会などの畜産関連学会との連携をより一層強化するため、公開講演会・シンポジウムの共催等を積極的に進めることが確認された。

(5) 畜産学の学術分野における一層の国際化の推進について

- ・畜産学分野に関わる国際学会が日本で開催された場合、本分科会も後援サポートをする形で、国際シンポジウムの共同開催などを積極的に進めることが確認された。
- ・国際派遣などを通じて、若手研究者の国際化を推進する方向性について、議論がなされた。
- ・今後は、畜産分野における外国人就労の増加が予想されるが、学術だけでなく産業としても国際化を円滑に達成するための在り方について、議論がなされた。

(6) 女性および若手研究者の一層の充実と活躍の推進について

- ・近年、農学や畜産学分野を選択する女性が増えており、女性にとっても魅力ある学問分野になっている点において発展性が認められる一方、学生から教職員等の上位キャリアへの移行時に女性が活動を続けられるようにすることが課題との意見が示された。また、ポスドク等の若手任期付研究員の処遇改善や畜産学分野を志す学生への支援の在り方についても議論がなされた。これに関連して、畜産学会員の雇用形態などについて、会員アンケートの実施を常務理事会、理事会へ提案してはどうかとの話になった（小澤会員担当）。
- ・畜産関連学会における「女性の会」や「若手の会」に相当する組織との連携強化や、女性・若手研究者の実態数や待遇状況を把握することの重要性について議論された。本分野が魅力的であることを再確認・再発信していくためにも、畜産学分野における国内外の成功事例や、産業界で身近に利用されている技術の取りまとめの必要性について、意見交換がなされた。

(7) 日本畜産学アカデミーの活動について

日本畜産学アカデミーの活動の活性化や安定化について、意見交換を行った。

(8) その他

次回第4回分科会は、平成30年12月28日午前中に日本学術会議で開催することを確認した。

配布資料：

日本学術会議畜産学分科会（第24期・第3回）議事次第

資料1：畜産学分科会第24期・第2回会議議事録要旨案

資料2：第24期会議開催計画表（平成30年度分）

資料3：公開シンポジウム「畜産物の質的保証：2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」のポスター・企画案

資料4：第7回日中韓草地学会議のポスター

資料5：平成30年度開催予定本分科会主催公開シンポジウム企画案

資料6：朝倉農学体系の企画案

資料7：第24期畜産学分科会概要

資料8：第24期畜産学分科会活動報告（2018年7月）

資料9：平成22年度 日本学術会議より発出された記録「畜産学の果たす役割（食肉、乳、卵、蜂蜜）」の表紙

資料１０：動物福祉研究会第３回シンポジウム「動物福祉管理士養成を
目指して」のポスター

参考資料１：第２４期食料科学委員会・畜産学分科会名簿

本委員会にあたっては、以下の職員が事務を担当した。

三神雅子参事官（審議第一担当）付審議専門職（平成３０年５月から）

以上